Italian Living Innovation

デロンギ ドリップコーヒーメーカー

型式番号 CMB6

※本体の型式番号「CMB6」の後に続くハイフンおよびアルファベット２文字は、色番号を表すものです。

家 庭 用



Made in China

取扱説明書

この度は、デロンギ ドリップコーヒーメーカー CMB6 をお求めいただきまして、誠にありがとうございました。製品を正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

CMB6 の特長

●優れた耐久性と堅牢性

メタルボディの採用で高級感と耐久性を兼ね備えたモデルです。

●抽出と保温を別々のヒーターで行う「デュアル・ヒーティング・システム」を採用

●保温プレートに自己温度制御機能を持つ PTC ヒーターを採用

●ペーパーレスフィルター採用

洗って繰り返し使用できるペーパーレスフィルターを標準装備。紙フィルターが不要で経済的です。

●シャワードリップ機能

９つの穴から出てくるシャワー状のお湯がコーヒーパウダーにまんべんなくかかることにより、ムラなくしっかりとした抽出が可能になりました。

●ドリップストップ機能

ドリップストップ機能がついているため、抽出中にガラスジャグを外してもドリッパーからコーヒーが漏れません。

目次

安全上のご注意　各注意事項を、必ずお守りください。

1. ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
2. ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への損害を未然に防止するものです。
3. 注意事項は、誤った取り扱いで生じることが想定される内容を、その危害や損害および切迫の度合いにより、「危険」「警告」「注意」の３つに分け、明示しています。

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して想定される」内容です。	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

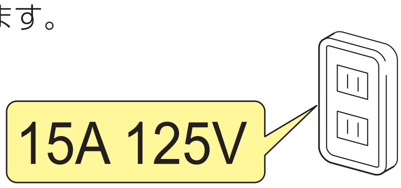
4. 各注意事項には、「禁止」または「強制」を促す絵表示が付いています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。
：禁止　：接触禁止　：水ぬれ禁止	：指示を守る
：分解禁止　：ぬれ手禁止	：電源プラグを抜く

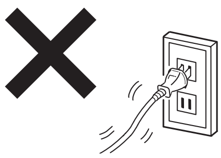
⚠ 警告

電源／コンセントについて

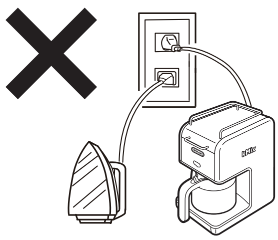
・電源は交流 100V（50/60Hz）で「15A 125V」と記されている壁面のコンセントに直接差し込む
他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。



・取り付けの悪いコンセントは絶対に使わない
取り付けの悪い（ガタツキのある）コンセントや差込み口（刃受）のゆるいコンセントは、絶対に使用しないでください。感電や発熱の恐れがあります。



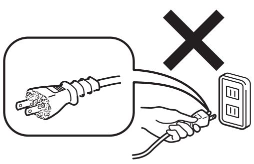
・コンセントは本製品だけ（単独）で使用する
コンセントの差込み口が２つある場合は、片方の差込み口を使用せず、空けたままにしてください。



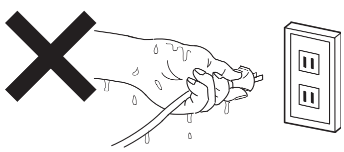
・延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは絶対に使わない
コンセントや電源プラグ／電源コードが異常発熱し、発火する恐れがあります。

電源プラグ／電源コードについて

・電源プラグやコンセントに付着しているホコリやゴミは、定期的に取り除く
ホコリやゴミが湿気を帯びると、ショートや漏電、発火などの原因になります。



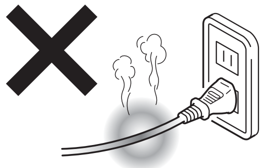
・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電する恐れがあります。



⚠ 警告

電源プラグ／電源コードについて

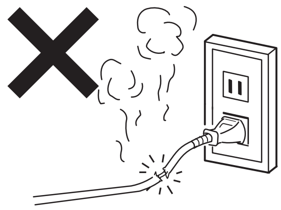
・**電源プラグ／電源コードが異常発熱している場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く**
使用中に、電源プラグ／電源コードが異常に熱くなる場合は、直ちに電源を切り、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）に、ご相談ください。そのまま使用すると、ショートや発火する恐れがあります。



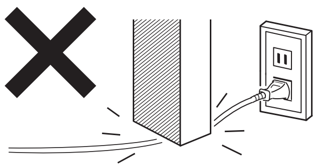
・**電源プラグは、根元までしっかりと差し込む**
不完全な接続は、感電や発熱による火災の原因になります。

・**動作中に電源プラグを抜き差ししない**
感電・火災の原因になります。

・**変形・破損している電源プラグ／電源コードは絶対に使わない**
感電やショート、発火する恐れがあります。必ず、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）に、交換を依頼してください。

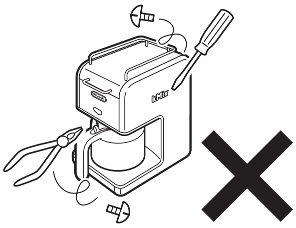


・**電源プラグ／電源コードを破損するようなことはしない**
電源プラグ／電源コードは、大切に扱ってください。無理に曲げたり、物を載せたり、束ねたり、傷をつけないでください。傷んだまま使用すると、感電やショート、発火などの原因になります。

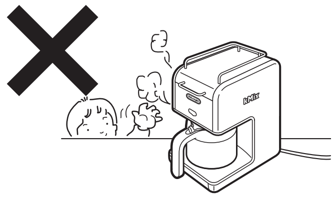


使用中／使用後について

・**自分で絶対に分解・修理・改造は行わない**
故障や発火の恐れがあります。



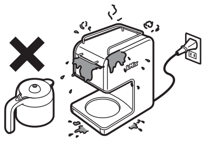
・**お子様だけでは使わせない。幼児の手の届くところで使わない**
ヤケド・感電・ケガの原因になります。



使用中について

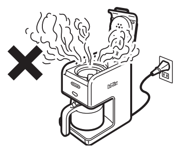
・**異常が生じた場合は、使用を中止する**
万一、異常が生じた場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常な状態で使い続けると、事故や故障につながります。必ず、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）までご連絡ください。

・**コーヒーの抽出をする際は、必ず、ガラスジャグを保温プレートの中央に乗せる**
ガラスジャグがない、または中央に置かれていないと、抽出したコーヒーが溢れ出る恐れがあります。



・本体を持ち運ぶ際は、ふた取っ手およびフィルターホルダー先端のドリッパー部分を持たない

・電源を入れた後は、コーヒーの抽出終了まで、**絶対にふたを開けたり、ガラスジャグを保温プレートから降ろしたり、本体を移動しない**



・コーヒーの抽出中はふたの**蒸気孔**から高温の蒸気（湯気）が出てくるので、**絶対に顔や手を近づけたり、ふさがない**
また、保温プレート周辺の金属部、カップ・ラックおよびフィルターホルダー先端のドリッパーも高温になりますので、触れないでください。

・絶対に**他の用途や屋外で使用しない**
本製品は、家事用のコーヒーメーカーです。

・ガラスジャグを直接火にかけたり、電子レンジで使わない
破損してケガの原因になります。

警告

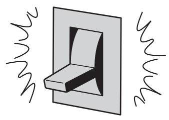
お手入れについて

・**本体のお手入れは<u>電源プラグをコンセントから抜き</u>、各部が冷えてから行う**
ヤケド・感電・ケガの原因になります。
コーヒー抽出後のホルダー受け内部（ペーパーレスフィルターおよびコーヒー粉、フィルターホルダー／ドリッパー)、カップ・ラック、保温プレートおよびその周辺の金属部は高温です。

注意

電源について

・**ブレーカーが落ちる場合には、電力会社に連絡する**
使用中に<u>ブレーカー（分電盤内の回路遮断器）が落ちる</u>場合には、お近くの電力会社にご相談ください。



電源プラグ／電源コードについて

・**電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、必ず<u>電源プラグを持って抜く</u>**
電源コードを無理に引っ張ると、破損する恐れがあります。

・**使用中は、電源コードを<u>本体に触れさせない</u>**
熱で電源コードが傷み、感電やショートの原因になります。

設置場所について

・**本体は不安定なところや熱に弱い場所に置かない**
本体や置いた物、場所が変形・変質したり火災の原因になります。

・**屋外や水／湿気の多い場所（部屋）で使わない**
ショートや感電の恐れがあります。

使用中／使用後について

・**本体が転倒、落下したときには、使用せず、点検を依頼する**
感電・火災の原因になります。

・**本体に水やコーヒーをこぼさない**
万一、こぼしてしまった場合は、ショートや感電の恐れがありますので、直ちに電源を切り、使用を中止します。その後、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）までご連絡ください。

・使用後は、必ずタンクを空にする

・タンクには、**新鮮で澄んだ水道水**または**ミネラルウォーター**を入れる
タンクの水量（MAX の文字まで）は、必ずお守りください。

・**長期間使用しない場合は、必ず電源プラグを抜く**
絶縁劣化による感電・漏電・火災の恐れがあります。

・**続けて使用するときは、本体が冷めるまで 5 分以上の休みを入れる**
すぐにタンクに水を入れたり、動かしたりすると、蒸気が噴出してやけどをする恐れがあります。

・**専用のガラスジャグ以外は使用しない**
お湯があふれて、やけどや故障の原因になります。

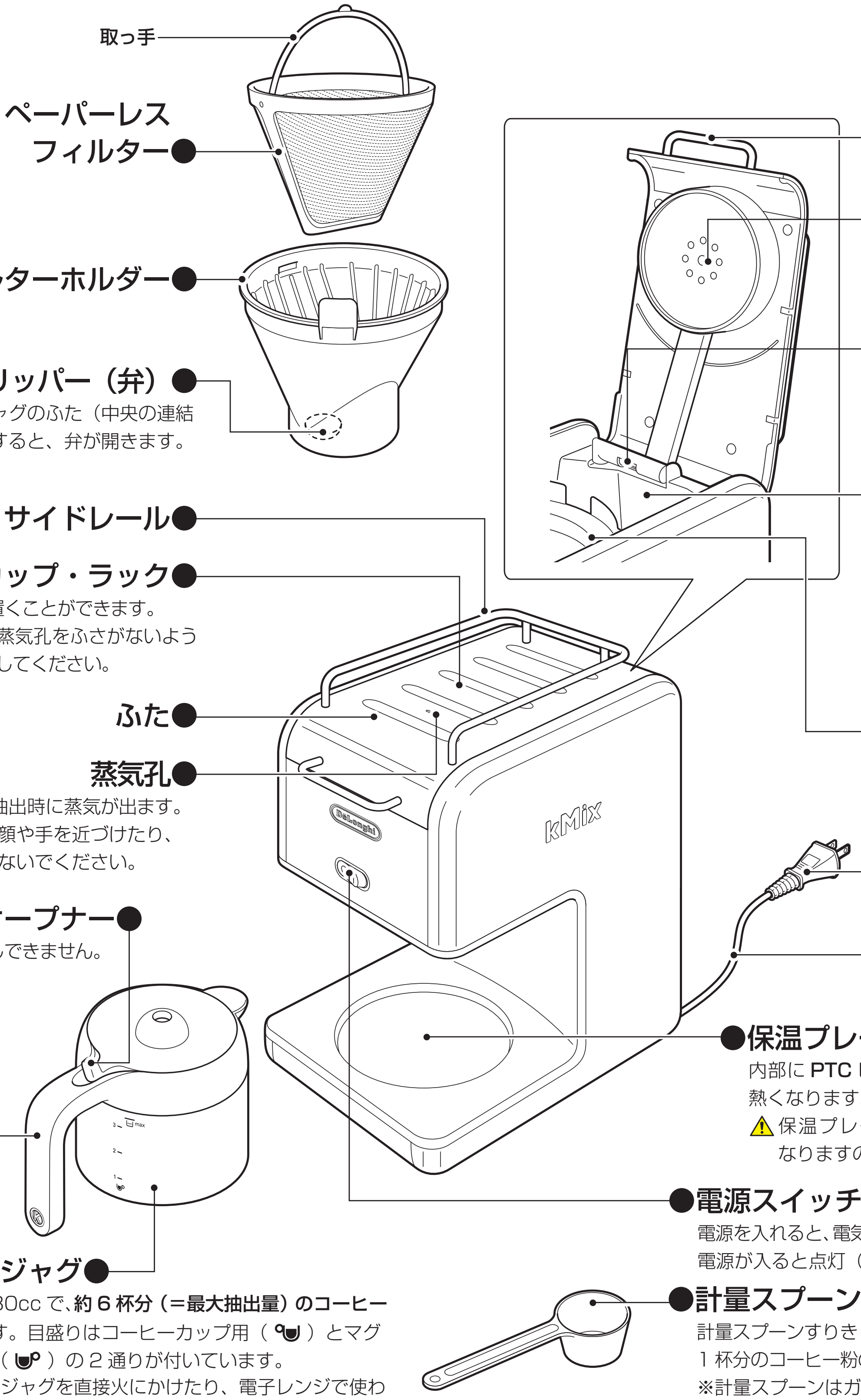
・**水タンクに水が入っていない状態でのカラだきはしない**
故障や火災の原因になります。

お手入れについて

・**絶対に、本体や電源コード / プラグを水に浸したり、水洗いをしない**
故障の原因になります。

・**本体のお手入れに、<u>ガラス磨き、シンナー、アルコール、ワイヤーウール、金ブラシ、たわし、研磨スポンジなどは使用しない</u>**
本体の表面が変質し、はがれ・変色・樹脂部品の割れの原因になります。

各部の名称とはたらき



ペーパーレスフィルター

フィルターホルダー

ドリッパー（弁）
ガラスジャグのふた（中央の連結部）が接すると、弁が開きます。

サイドレール

カップ・ラック
カップを置くことができます。
⚠ふたの蒸気孔をふさがないように注意してください。

ふた

蒸気孔
コーヒー抽出時に蒸気が出ます。
⚠絶対に顔や手を近づけたり、ふさがないでください。

ふたオープナー
※取り外しできません。

ガラスジャグ
容量は 780cc で、**約 6 杯分（＝最大抽出量）のコーヒー**が入ります。目盛りはコーヒーカップ用（ ☕ ）とマグカップ用（ ☕ ）の 2 通りが付いています。
⚠ ガラスジャグを直接火にかけたり、電子レンジで使わないでください。

ふた取っ手

給湯口
9 つの穴から電気ヒーターで熱した熱湯が出てきます。

給湯管
⚠抽出中にふたを開けると給湯管の穴が開き、熱湯が噴き出てきますのでご注意ください。

タンク
新鮮で澄んだ水道水かミネラルウォーターを入れます。**注水量は、145cc（最少）～ 780cc（最大）です。**
タンク内には 2、4、6 杯用の目安になる目盛りが付いています。

ホルダー受け

電源プラグ

電源コード

保温プレート
内部に **PTC ヒーター**があり、コーヒー抽出時に熱くなります。
⚠ 保温プレートおよび周辺の金属部は高温になりますので、絶対に触れないでください。

電源スイッチ
電源を入れると、電気ヒーターがタンクの水を加熱します。電源が入ると点灯（**オレンジ色**）します。

計量スプーン
計量スプーンすりきり～やや多め 1 杯（約 7g）＝コーヒー 1 杯分のコーヒー粉の量。
※計量スプーンはガラスジャグの中に入っていますので、お使いになる前に取り出してください。

⚠ ペーパーレスフィルターについて

本製品に付属しているペーパーレスフィルターには、**中挽きから粗挽きの豆が適しています。**コーヒー豆を店頭で挽いてもらう際には、中挽きか粗挽きを指定してください。お手持ちのコーヒーグラインダー（ミル）で挽く際にも、中挽きか粗挽きになるように調整してください。それよりも細かく挽いた豆をお使いになると、多量のコーヒーを抽出する際に、溢れてくる恐れがあります。

また、ペーパーレスフィルターは**微細な穴からコーヒーを通す構造になっているため、粒度の細かいコーヒー粉がコーヒーに混じることがありますが、製品の不具合ではありません。**気になる場合は、市販のペーパーフィルターをお使いください（サイズ 1 × 2、または 102）。

初めてお使いになる前に

最初のご使用前に、必ず行ってください。

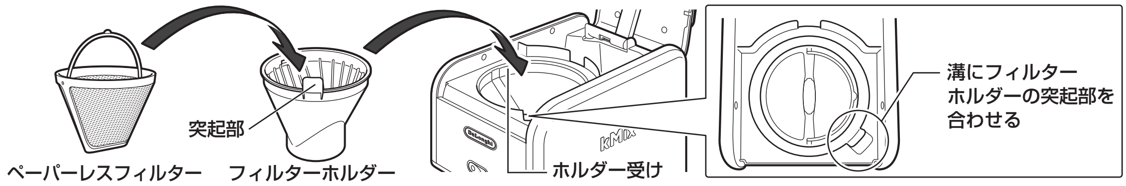
本製品を最初に使用する際は、事前に、本体内部の配管（内部のお湯の通り道など）を下記の要領で洗浄してください。なお、この手順で、コーヒー抽出前のガラスジャグ等の湯煎もできます。

内部洗浄をするときの注意点

- ホルダー受けに、フィルターホルダーを正確に取り付け、ペーパーレスフィルターをセットしてください。
- タンクへの注水量は、必ず、最大水量（Max 表示）以下にしてください。

1 フィルターホルダーとペーパーレスフィルターを取り付ける

まずペーパーレスフィルターをフィルターホルダーにセットします。その後、下記のようにフィルターホルダーを、ホルダー受けに正しい向きで取り付けます。

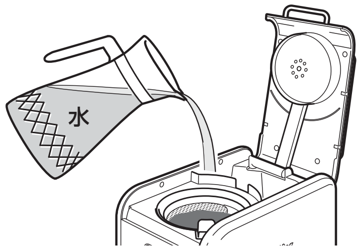


2 ガラスジャグを本体にセットする

ガラスジャグを、**保温プレート**の中央（**＝ドリッパーの真下**）に乗せます。

⚠ **ガラスジャグがない、または中央に置かれていないと、抽出したコーヒーが溢れ出る恐れがあります。**

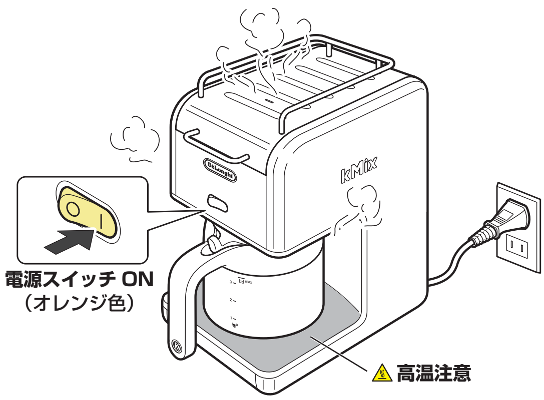
3 タンクに水を入れる



ふたを開け、タンクの**目盛 6 杯（ ）**（**Max 表示**）まで、澄んだ水道水を入れ、ふたをカチッというまでしっかり閉めます。

⚠ **最大水量は、目盛 6 杯（ ）を超えないでください。**
それ以上入れると、ガラスジャグからコーヒーが溢れ出る恐れがあります。

4 電源を入れ、洗浄する



プラグを壁面のコンセントに直接差し込み、**電源スイッチ**を押します。電源が入ると**電源スイッチがオレンジ色**に点灯します。

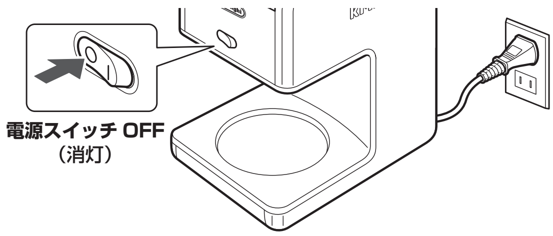
しばらくすると、ボコボコという沸騰音と共に給湯が始まり、熱湯がドリッパーを通ってガラスジャグに流れ込みます。また、ふたの**蒸気孔**からは高温の蒸気が出てきます。

⚠ **ヤケド注意：給湯中は、絶対にふたを開けたり、蒸気孔に顔や手を近づけないでください。**

約 5 分後に沸騰音が止まり（＝タンクの水が無くなり）、給湯が終了します。

⚠ **ヤケド注意：保温プレート周辺の金属部、および給湯終了直後のホルダー受け内部は高温ですので、すぐには手で触れないでください。**

5 電源を切り、お湯を捨てる



電源スイッチを押して、電源を切ります（→電源スイッチ消灯）。
ガラスジャグを保温プレートから降ろし、中のお湯を捨てます。

⚠ **続けてコーヒーの抽出を行う場合には、必ず、5 分以上の休み（＝電源を切った状態）を入れてください。すぐにタンクに水を入れたり、動かしたりすると、蒸気が噴出してやけどをする恐れがあります。**

使用手順：コーヒーの作り方

コーヒーカップ
1 杯分の抽出量は
約 125 ～ 130cc。
マグカップ
1 杯分の抽出量は
約 200 ～ 215cc。



※水量がタンクの目盛にない 1 杯抽出の場合は、お手元のカップ等で測ってください。
※コーヒー粉の量は目安ですので、お好みで調整（最大 6 杯）してください。

⚠ アイスコーヒーを作るときは、予めガラスジャグに直接氷を入れて抽出したり、冷蔵庫などで急速に冷やすことはお止めください。

ホットコーヒー（コーヒーカップ使用）の場合：タンクの目盛を目安に注水します。

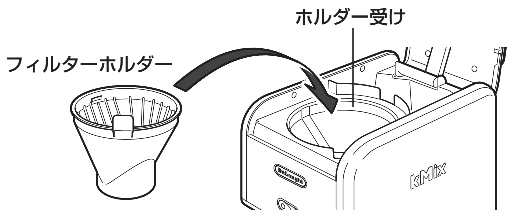
ご希望の杯数	注水量	コーヒー粉の量（計量スプーンの杯数）
1（最小）	約 145cc	1
2	2 杯（ ）タンクの目盛	2
4	4 杯（ ）タンクの目盛	4
6（最大）	6 杯（ ）タンクの目盛	6

ホットコーヒー（マグカップ使用）の場合：ガラスジャグ右側の目盛を目安に注水します。

ご希望の杯数	注水量	コーヒー粉の量（計量スプーンの杯数）
1（最小）	1 杯（ ）ガラスジャグ右側の目盛	1.5
2	2 杯（ ）ガラスジャグ右側の目盛	3
3（最大）	3 杯（ ）ガラスジャグ右側の目盛	4.5

※アイスコーヒーを作る場合には、上記の倍の粉量をお使いください。ただし、倍の粉量が計量スプーン 6 杯を越えないようにしてください。

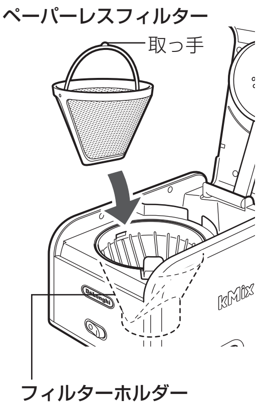
1

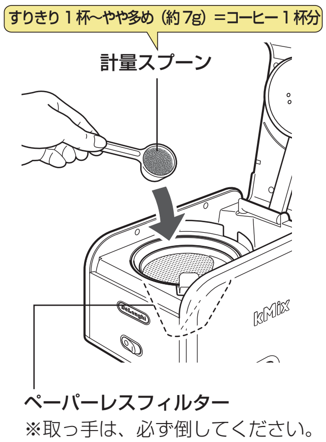


フィルターホルダーを取り付ける

フィルターホルダーを、ホルダー受けに正しい向きで取り付けます（5 ページ参照）。

2





ペーパーレスフィルターをセットし、コーヒー粉を入れる

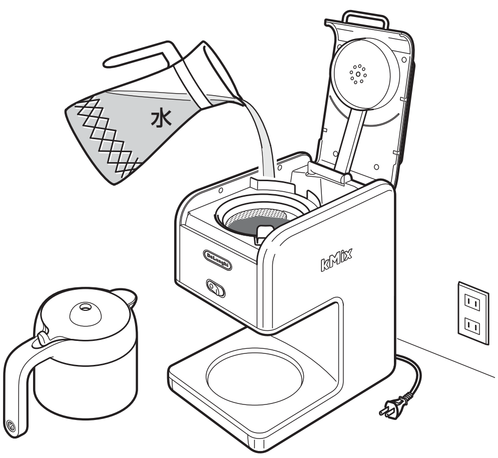
フィルターホルダーにペーパーレスフィルターをセットし、付属の**計量スプーン**を使って、**適量の**（※）コーヒー粉を入れます。

▶ コーヒー粉は、**新鮮で中～粗挽きのもの**をご使用ください。

※ 計量スプーンすりきり～やや多め 1 杯(約 7g)＝コーヒーカップ 1 杯分のコーヒー抽出に適した粉量（目安）です。

※コーヒー粉は 6 杯以上入れないでください。

3



タンクに水を入れる

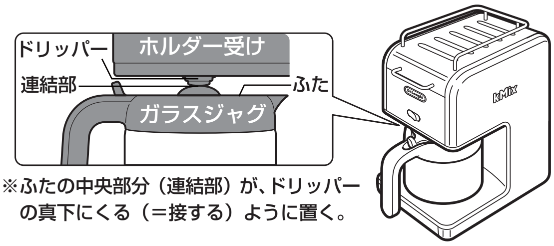
タンク内部にある**水量表示の目盛（※ 2 ～ 6 杯（ ）＝杯数）**を目安に、ご希望の水量をタンクに入れます。その後、ふたをカチッというまでしっかりと閉めます。

※目盛にない 1（杯分）は、**カップ 1 杯分に必要な水量＝約 145cc**（→抽出量は約 125cc）を目安に、注水してください。

⚠ **最大水量は、目盛 6 杯（ ）を超えないでください。**
それ以上入れると、ガラスジャグからコーヒーが溢れ出る恐れがあります。

▶ 水は、**新鮮で澄んだ水道水**または**ミネラルウォーター**をご使用ください。

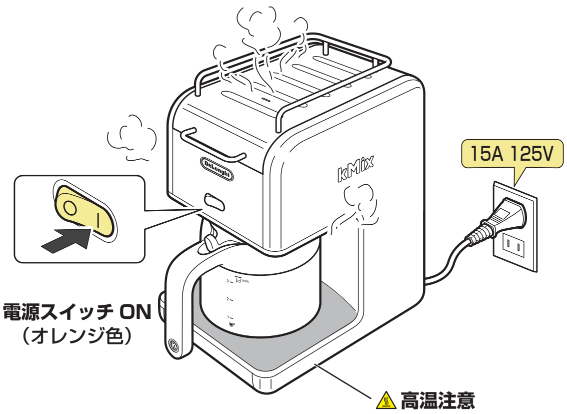
4



ガラスジャグを保温プレートに載せる

空にしたガラスジャグを、保温プレートの中央（＝**ドリッパー（弁）**の真下）に載せます。

5

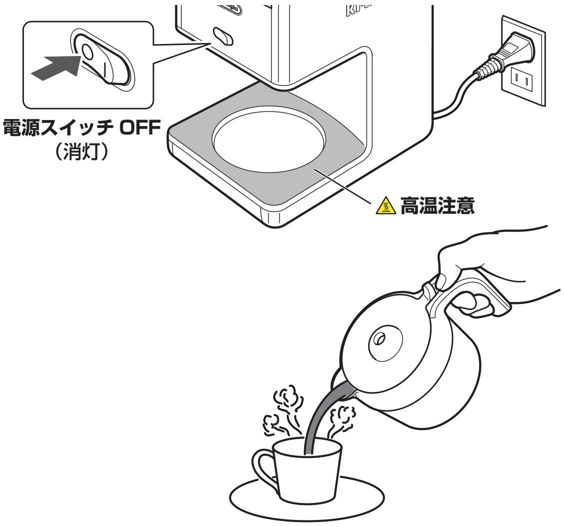


電源を入れる（コーヒー抽出）

プラグを壁面のコンセントに直接差し込み、**電源スイッチ**を押します。電源が入ると**電源スイッチがオレンジ色に点灯**し、タンクの水を加熱します。
しばらくすると、ボコボコという沸騰音と共に給湯／コーヒーの抽出が始まります。抽出したコーヒーは**ドリッパー**を通り、**ガラスジャグ**に流れ込みます。

ヤケド注意 抽出（給湯）中に本体を移動したり、ふたを開けたり、蒸気孔に顔や手を近づけたり、ガラスジャグを保温プレートから降ろすことなどは、絶対にお止めください。

6



抽出終了後、電源を切り、ガラスジャグを降ろす

タンクの水が無くなるとシューッという音だけになり、コーヒーの抽出が終了します。電源スイッチを押して、電源を切ります（→電源スイッチ消灯)。ガラスジャグを保温プレートから降ろし、コーヒーカップに注ぎます。

※保温するときは電源スイッチをＯＮにしておき、保温を止めたいときは電源スイッチをＯＦＦにしてください。

続けてコーヒー抽出を行う場合は、電源を切り、5分以上の休み（＝電源を切った状態）を入れてください。すぐにタンクに水を入れたり、動かしたりすると、蒸気が噴出してやけどをする恐れがあります。

▶ コーヒー本来の「香り」と「風味」は、時間の経過と共に失われていきますので、なるべく30分以内にお召し上がりください。

7 使用後は、必ずプラグをコンセントから抜く

ヤケド注意 保温プレート周辺の金属部、および抽出終了直後のホルダー受け内部やドリッパーは高温ですので、触れないでください。また、お手入れは、各部が冷えてから行ってください。

お手入れのしかた

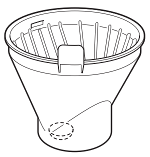
使用頻度や汚れ具合にもよりますが、下記の要領でお手入れをしてください。

お手入れをするときの注意点

- 事前に、必ずプラグをコンセントから抜いてください。
- 使用後すぐのお手入れは、お止めください。まだ熱いのでヤケドの危険があります。
- 本体のお手入れは、タンク内の水を捨て、保温プレートが冷えてから行ってください。

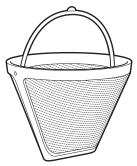
＜水洗いできます＞

フィルターホルダー

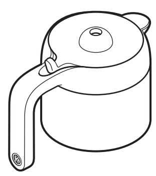


先端（ドリッパー）を押し上げて、水洗いします。

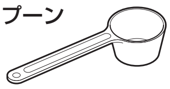
ペーパーレスフィルター



ガラスジャグ



計量スプーン

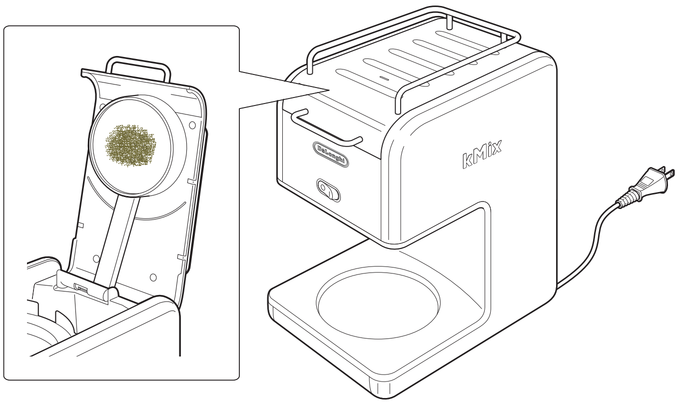


・使用後は毎回、台所食器用洗剤と柔らかいスポンジで水洗いします。
・ペーパーレスフィルターがコーヒーの油脂分で目詰まりした場合は、少量の台所食器用洗剤を入れたぬるま湯にしばらく浸けてから、お手入れをしてください。

▶クレンザーや金たわし、ベンジンやシンナー等は、使用しないでください。

＜水洗いできません＞

抽出後、給湯口にコーヒー粉が付着している場合は、固く絞った濡れ布きんで拭き取り、必要に応じて内部洗浄の手順を行います（5ページ参照）。



・表面の汚れは、固く絞った濡れ布きんで拭き取ります。
・落ちにくい汚れは、少量の台所食器用洗剤を含ませた布で拭き、次に、固く絞った濡れ布きんで洗剤をよく拭き取ります。

▶ 水に浸けることは、絶対にお止めください。

石灰分の除去

長く使っていると、内部の給湯管などに水中の石灰分が付着し、お湯の出が悪くなる場合があります。使用頻度にもよりますが、約６ヵ月に一度を目安に、下記の要領で石灰分の除去を行ってください。

① ホルダー受けにフィルターホルダーを取り付け、ガラスジャグを保温プレートに乗せます。
② タンクの目盛４杯（　）まで水を入れ、そこに**大サジ１杯分の酢**を加えてふたをします。
③ そのまま５分ほど待ってから、プラグを壁面のコンセントに差し込み、電源スイッチを押します。
電源が入ると電源スイッチが点灯し、しばらくすると沸騰音と共に給湯（内部洗浄）が始まります。
④ タンクの水が無くなり、沸騰音が止まると、給湯の終了です。
⑤ 電源を切り、５分ほど「休み」をとります。ガラスジャグを空にしてすすぎ、再び保温プレートに乗せます。
⑥ タンクに水だけを目盛６杯（　）まで入れ、再び給湯を行います。さらに給湯を２～３回繰り返し、酢の臭いが消えたら終了です。

故障かな？　修理を依頼される前に、以下の点をお調べください。

使用中に異常が生じた場合は、直ちに電源を切り、使用を中止してください。その後、本体および各部が冷えてから、以下の点をお調べください。なお、修理のご依頼は、裏表紙「アフターサービスについて」を参照してください。

状　態	予　想　さ　れ　る　原　因	対　処　の　し　か　た
コーヒーが抽出されない／ガラスジャグに落ちてこない	プラグがコンセントに入っていない	プラグをコンセントに差し込む
	電源が入っていない	電源スイッチを押して、電源を入れる → 電源スイッチがオレンジ色に点灯
	タンクに水が無い	タンクに、適量の水を入れる
	フィルターホルダーの取付けが不完全	ホルダー受けに、正しい向きで取り付ける（5 ページ参照）
	ドリッパーにコーヒー粉が詰まっている	フィルターホルダー先端のドリッパーを押し上げて、水洗いする（8 ページ参照）
	ペーパーレスフィルターの取付けが不完全	フィルターホルダーに、正しい向きでセットする
	コーヒー粉が入っていない	ペーパーレスフィルターに、適量のコーヒー粉を入れる
	本体のふたが開いている	ふたをカチッというまでしっかりと閉める
	ガラスジャグが、保温プレートに乗っていない／保温プレートからズレている	ガラスジャグを、保温プレートの中央に乗せる
コーヒーの出（落ち）が悪い	ペーパーレスフィルターの目詰まり	少量の台所食器用洗剤を入れたぬるま湯にしばらく浸けてから、お手入れをする（8 ページ参照）
	ドリッパーにコーヒー粉が詰まっている	フィルターホルダー先端のドリッパーを押し上げて、水洗いする（8 ページ参照）
	コーヒー粉（挽き具合）が細か過ぎる	やや粗めに挽いた粉を使う 市販のペーパーフィルターを使用する
	給湯管に石灰分が付着している	石灰分の除去をする（8 ページ参照）
コーヒーに多量の粉が混じる	コーヒー粉（挽き具合）が細か過ぎる	やや粗めに挽いた粉を使う 市販のペーパーフィルターを使用する
コーヒーがガラスジャグから溢れる	タンクの水量が、最大量を超えている	最大水量（タンクの目盛６杯（ ））を超えないこと ※水量が、MAX 表示の M の文字にかからないように、ご注意ください
コーヒーがフィルター受けから溢れる	フィルターホルダーの取付けが不完全	ホルダー受けに、正しい向きで取り付ける（5 ページ参照）
	ドリッパーにコーヒー粉が詰まっている	フィルターホルダー先端（ドリッパー）を押し上げて、水洗いする（8 ページ参照）
	ペーパーレスフィルターの取付けが不完全	フィルターホルダーに、正しい向きでセットする
	コーヒー粉の入れ過ぎ	コーヒー粉の最大量（計量スプーンすりきり～やや多め６杯）以上を入れないこと
	ガラスジャグが保温プレートに乗っていない／保温プレートからズレている	ガラスジャグを、保温プレートの中央に乗せる
抽出したコーヒーがぬるい	コーヒー豆 / 粉を冷蔵庫・冷凍庫に保管していた	コーヒー豆 / 粉が常温になったのを確認して使用する

仕様

製品名称／型式番号		デロンギ　ドリップコーヒーメーカー／CMB6
定格：電圧／周波数／消費電力		交流 100V ／ 50/60Hz ／ 1100W
温度ヒューズ		227℃
外形寸法／質量（ガラスジャグ含む）		幅 170 ×奥行 260 ×高さ 295mm ／ 3.0kg（本体のみ：2.7kg）
容量	タンク	**最大水量：780cc**（約 6 杯分のコーヒー抽出に必要な水量）
	ガラスジャグ	**最大量：780cc**（Max の目盛）
付属品		**ペーパーレスフィルター**（装着済）、**計量スプーン**（ガラスジャグ内に入っています）

	各部	材質
コーヒーメーカー	本体（表面）	アルミニウム、ステンレス
	タンク、フィルターホルダー、ホルダー受け	ポリプロピレン
ガラスジャグ	胴体	ホウケイ酸ガラス（耐熱ガラス）
	ふた、取っ手	ポリプロピレン
ペーパーレスフィルター	取っ手、フレーム	ポリプロピレン
	フィルター	ステンレス（SUS304）

別売品

- ガラスジャグ【CMB6-GJ】……価格 4,200 円（本体価格 4,000 円、消費税 200 円、送料別）
- ペーパーレスフィルター【CMB6-PF】……価格 1,680 円（本体価格 1,600 円、消費税 80 円、送料別）
- エルフォ社（スイス）製ゴールドフィルター【KF2】……価格 3,990 円（本体価格 3,800 円、消費税 190 円、送料別）

お求め方法▶ 販売店もしくは弊社サービスセンター（裏表紙参照）まで、電話または Fax. でご注文ください。

この製品は欧州RoHS指令に適合した製品です。

欧州RoHS指令とは､｢電気･電子機器の特定有害物質の使用制限｣を規定した欧州連合(EU)による指令です。

この製品は、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、六価クロム化合物、カドミウム及びその化合物、ポリブロモビフェニル（ＰＢＢ）、ポリブロモジフェニルエーテル（ＰＢＤＥ）の含有率が、いずれも含有率基準値以下であり、環境に配慮して製造されました。

RoHS

アフターサービスについて

1)使用中に異常（★）が生じた場合は、ただちに電源を切り、プラグをコンセントから抜いてください。その後、お求めになった販売店または**弊社サービスセンター（下記参照）**にご相談ください。

〈★以下のような場合には、点検および修理が必要です〉

- ・使用中、電源コードおよび電源プラグ、コンセントが異常に熱くなる
- ・本体の機器内部に水などの液体をこぼした
- ・電源コード、電源プラグが変形／破損している
- ・本体に強い衝撃を与えた
- ・取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

2)万一、故障／損傷した場合は、保証書に記載されている販売店に **1. お求め時期 2. 製品名称と型式番号 3. 故障の状況**——を連絡のうえ、修理を依頼してください。なお、弊社サービスセンターにご依頼される場合は、お電話または直接宅配便でお送りください。宅配便の場合は､必ず故障の状況を記したメモを商品パッケージ（梱包箱）に同封してください。

※お送り先については、事前にお電話あるいはホームページ（下記参照）にてご確認ください。

3)保証期間中（1 年）は、保証書に記載されているものについては、無償で修理いたします。ただし、安全上および使用上の注意を無視しての故障、規格外に改造をしたものは、その限りではありません。また、保証期間が過ぎたものについては、有償で修理いたします。

4)補修用性能部品の保有期間について

弊社では、このコーヒーメーカーの補修用性能部品について、最終輸入日を起点に 5 年間保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

5)**真心点検のお勧め**：長い期間ご使用いただくために、専門技術者による点検・整備も実施しております。点検の依頼方法、料金などにつきましては、弊社サービスセンターまでお問い合わせください。

※下の枠内に、ご購入年月日を記入してください。点検の目安になります。

ご 購 入 年 月 日 ：	年	月	日

6)**デロンギ再資源化システムについて**：

ご不用になった製品は、下記の要領に従い、弊社サービスセンターまでお送りください。素材ごとに分別し、再資源化いたします。

送料について：再資源化の費用は弊社が負担いたしますが、送料はお客様のご負担（元払い）となります。予めご了承ください。

梱包について：製品の入っていた箱（元箱）に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアーパッキンにくるんでください。
※外箱または送り状に、必ず「再資源化」と明記してください。

以上、アフターサービスについてご不明の点がございましたら、お求めの販売店または弊社サービスセンターまでお問い合わせください。

デロンギ・ジャパン サービスセンター（受付時間▶土、日、祝日を除く毎日 9:30 ～ 18:00）

コールセンター
修理について Tel.0120-804-280
Tel.0120-692-885
お問い合わせ Tel.0120-064-300
Tel.0120-692-880
／Fax.045-450-3291

〒 221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-9　安田倉庫（株）内 4 号ビル

ホームページでのお問い合わせ（URL）　**http://support.delonghi.co.jp**

デロンギ・ジャパン株式会社
〒101-0044　東京都千代田区鍛治町1-5-6　第3大東ビル

www.delonghi.co.jp　イタリアのライフスタイル情報満載！会員登録でプレゼントのチャンスも！

環境に負荷の少ない完全無塩素漂白エコパルプ（TCF）とソイインクを使用しています。